

- ・コラム「1 + 1 = 2にならない現実を前にして」(杉浦 良)
- ・お知らせ(愛知県で映画会・講演会、メンバーが紹介されました)
- ・新人職員雑感(西村 洋平)
- ・ご支援下さった皆様 / 編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

2010年8月 139号

—「1 + 1 = 2にならない現実を前にして」— 杉浦 良

「へ〇へ〇の状態なので、S君を家に帰した方が良いと思います。」きっぱりと答える新任職員に対し「それは少し待って、熱中症の疑いもあるので塩を入れた水を飲ませて、少し休ませ、様子を見たらどうか？もう40分もしたら帰る時間だよ・・・」「でも安全と健康がまず優先されます。作業をやめすぐに家に帰すのが、マニュアルではないのですか？」「では、あなたがちゃんとS君に説明して、納得して帰ってもらったらどうなの・・・」「本人に言っても、イケるといいはって、耳をかしませんよ！そういうヤツなんですS君は・・・」

S君の狭い家にはたくさんの家族がいます。お父さんと本人が唯一の働き手です。養護学校を卒業し、一般就労という選択肢は、日本の地方都市の現実の前に、挫折するしかありませんでした。この15年ほど、徳島もグローバル化の流れに翻弄され、仏壇製造、家具製造、食品加工業、縫製業といった、今までハンディーを持ったメンバーたちの就労の場として機能した職種は、人件費の安い中国やベトナム、タイやブラディッシュといった国々に、その生産拠点を移すことになりました。新たな就労の場として、清掃業やリサイクル業(ごみ分別処理)といった職種も生まれたものの、以前の状況には手が届きません。そこでS君は私たちのところ



イラスト 宇津さん

にやって来る事になりました。体を毎日鍛えていると本人が言うわりには、細い体で筋肉も付いていません。勢いだけは良いのですが、食も細く、炭酸飲料とお菓子が大好きです。

彼はボソッと「弁当は家にあるものを自分で詰めてくるんだ・・・」と語ります。私は「国府給食さんのおかげと、皆が作るご飯と味噌汁は、作業所で400円で食べられるよ・・・」と答えます。「余りおなかもすかんから、ボクはこれでいいんだ・・・」そう、うつむき加減に答える、彼がいます。

「だったらいいけど、そのかわり、みんなが嫌いだと言って残したおかずは、あんたが食べるんだよ！」

私が言い寄ると「そんなにたくさんボクは食べられん・・・」と話をかわします。「ところでS君、みんなが作った味噌汁はサービスにしとくから、飲むんだよ！」重ねて言い寄る私に「ボクは味噌汁が嫌いだから・・・」とそらします。

自分が働かなければ、お父さんやお母さんを楽にさせられないとでも思っているのでしょうか。ここでもらった給料のうち、半分以上はお母さんに渡します。遊びたい盛りに、グッと気持ちを押し

込めるようにして「兄ちゃんをあてにならんし、妹たちはまだ小さいし、父ちゃんの仕事もボチボチだし・・・」と空を見上げます。私は頂いた栄養ドリンクを3本、S君に渡し、1本は今すぐに飲んで、明日の朝に次の2本目を飲み、その次の朝に3本目を飲むようにいいました。横にあったカン口飴を、3、4粒、彼の手に握らせ、私は、ようやく生えかけた彼の無精ヒゲを、無理やりそりながら・・・「あんたも本当に大したもんだよ・・・。みんなに、あんたのツメのアカでも煎じて飲ませたいわ・・・」と、独り言がこぼれました。その横で「あいつの真っ黒なツメのアカを飲んだら、ゲーとなるなあ！薬を飲まんといかんなあ！・・・」とワイワイガヤガヤ、外野がうるさくてかなわない、酷暑厳しき徳島の作業所風景です。
(これは日々日常をつなぎ合わせたイメージ論です)

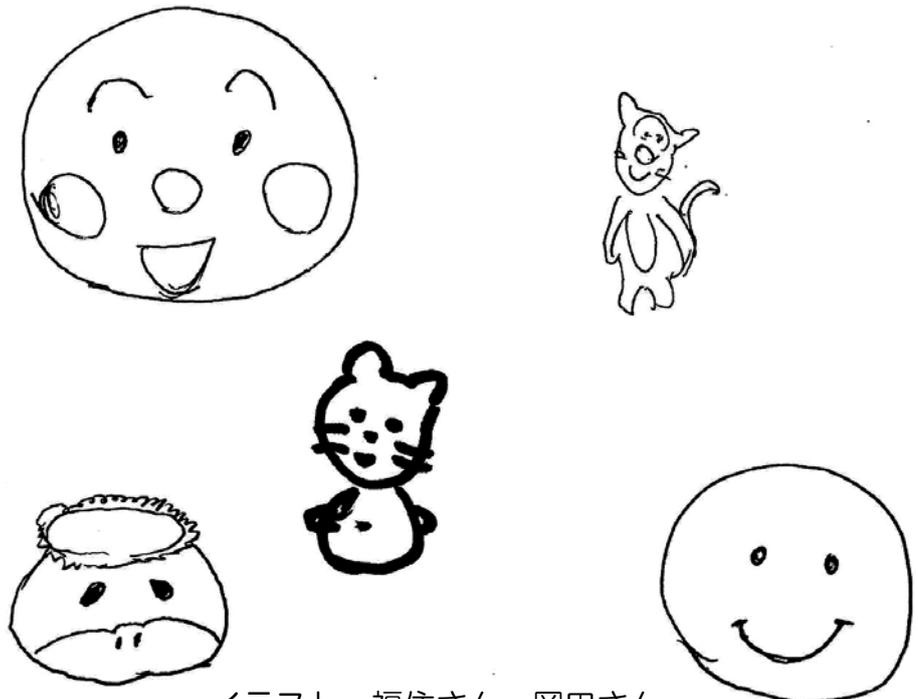


イラスト 福住さん 岡田さん

お知らせ

愛知県知多市にて 映画上映会・講演会

8月1日午後1時～4時、愛知県の知多市勤労文化会館（やまももホール）にて、柳澤壽男監督のドキュメンタリー映画「そっちゃないこっちゃ コミュニティケアの道」（1982年）の上映会、及び太陽と緑の会代表杉浦の講演会「ポパイノイエから28年。どんな福祉を思ったか」が開催されました。

定員300名のホールで立見の方が出るほどの盛況で、行政・社協関係者も含め、各界の皆様が来て下さいました。

当時のポパイノイエのメンバーさんの半数はすでに亡くなられたとのお話を伺い、28年という流れた月日の長さを感じるとともに、当時の活動の福祉的意義を改めて考えました。

ご来場の皆様から2万3921円のカンパを頂きました。太陽と緑の会の今後の活動資金として、大切に活用させて頂きます。

今回の映画上映会・講演会を企画・運営して下さいました皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

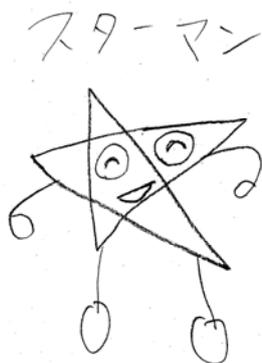


イラスト 阿部さん

来所・見学

6月18日～20日 知的障害児施設白川学園（京都府）の職員及びメンバー（園生）の計7名の皆様が、四国八十八箇所お遍路参りを行うために来所。月の宮共同生活棟で2泊されました。このプロジェクトもスタートして11年、今回の行程により無事踏破することができたとのことでした。長い間お疲れ様でした。

6月25日 NPO法人市民未来共社の畠さん、川崎さんが見学のため来所。

7月1日午後2時から4時、徳島県若者サポートステーションの利用者5名、職員3名の皆様が来所。5月13日に続いて2回目の職場体験講座を行いました。

7月8日 障害者地域共同作業所うめっこ作業所（徳島県神山町）の職員、メンバー、保護者・ボランティアの方など40名の皆様が見学のため来所。

7月12日～15日（14日除く）、地域活動支援センター太陽と緑の会リサイクル作業所にて、地元の国府支援学校高等部3年生の職場体験実習を実施。

昨年2月、7月に続く3回目の実習で、今回は、トラックに乗っての品物の回収作業、新館での接客作業、レジの補助作業などを体験して頂きました。

一般のお客さんと接する仕事はかなり緊張した様子でしたが、元気のよい挨拶が印象に残りました。3日間お疲れ様でした。

作業所メンバーが 紹介されました

7月15日、NHKの午後6時10分からのニュース番組にて、太陽と緑の会リサイクル作業所メンバーの米田さんの活動を取り上げて頂きました。

詩の朗読風景に始まり、作業所での作業（電話対応）、飛び込みでの詩集販売などの映像とともに、9作に渡って作り続けてきた詩集の内容が本人の内面的な成長に伴って変化していることが紹介されました。

7月6日に放送部報道カメラマンの鶴田さんが当会に初めて来所。散髪屋さんでたまたま米田さんの詩集を目にしたことが、取材のきっかけとなったそうです。

その日の午後、早速詩集販売の現場を見るため、米田さんに同行しました。カメラによる撮影は鶴田さんとアシスタントの方の2名が来られ、7月8日～13日、日曜日を除く5日間に渡り行いました。

時間の都合で放映されませんでしたでしたが、メンバーによる詩集の製本作業の様子なども撮影され、皆の手作りによる詩集というイメージを表現したい、という鶴田さんの想いが伝わってきました。

本当にありがとうございました。

（詩集の販売については、088-642-1054まで）

7月17日付毎日新聞（徳島版）、8月20日付朝日新聞（徳島版）でも、米田さんの詩集販売の取り組みを紹介して頂きました。

ありがとうございました。

会議

3月25日 とくしま県民環境会議クリーン・リサイクル推進部会総務企画委員会が開催。当会代表杉浦が出席

5月15日 特定非営利活動法人徳島県ボランティア協議会総会 杉浦出席

5月26日 第10回全国障害者芸術・文化祭とくしま大会準備会 杉浦出席

6月23日 とくしま環境県民会議 代表理事杉浦出席

太陽と緑の会リサイクル作業所内 米田太様

いつも詩集を持って来てくれて
ありがとうございます。

今回の「心杖」も、読ませて
もらいました。

どれも素晴らしい詩ですが
その中でも「たった一つの命だから」が
一番好きです。

がんばろう！という気持ちになりました。

ありがとう

8月16日朝、FAXで頂きました。ありがとうございます。

新人職員 雑感

繰り返し続けるー「福祉とは何か」ー

春より専任職員として務めている社会人1年目の西村と申します。機関紙「かわら版」へ寄稿することになり、福祉職かつ社会人の1年目としての決意のようなものが書ければと思います。

「しかし……福祉切捨ての時代に」というドキュメンタリー番組で山内豊徳という人を知りました。山内は環境庁次期事務次官候補として水俣病訴訟の国側の責任者として批判の矢面に立たされているさなかに自ら命を絶しました。

役人としての自分に忠実に、人間としての自分に忠実に生きようとした時に結局、自らにああいう形で結論を下さずにはおれなかったのではないかと思いますと、生前、山内と親しかった人物は語っていました。(1)

山内は15歳の時に『しかし』と題された詩を書いています。(2)



『しかし』

しかし……と

この言葉は

絶えず私の胸の中でつぶやかれて

今まで、私の心のたった一つの拠り所だった

私の生命は、情熱は

このことばがあったからこそ……

私の自信はこのことばだった

けれども、

この頃この言葉が聞こえない

胸の中で大木が倒れたように

この言葉はいつの間にか消え去った

しかし……と

もうこの言葉は聞こえない

しかし……

しかし……

何度もつぶやいてみるが

あのかげやしい意欲、

あのはれやかな情熱は

もう消えてしまった

「しかし……」と

人々におかって

たゞ一人佇んでいながら

夕陽がまさに落ちようとしていても

力強く叫べたあの自信を

そうだ

私にもう一度返してくれ。

ドキュメンタリー番組「しかし……」を撮った是枝裕和は次のように語っています。(3)

年齢を重ねていくにつれ、人は「しかし」という言葉を自分の中から失っていく。そして、その言葉を「だけど…」という言い訳の言葉に変えながら生きていく。山内はそれが許せなかったのかもしれない。「しかし」と言えなくなった53歳の自分を、15歳の自分によって裁いてしまったのではないか。もう一度返してくれという山内の叫びは、自分に向けてのものだったのか。「だけど」という時代に向けてのものだったのか。現実主義の時代の中で、しかしという言葉が山内の中から消え、時代からまたひとつしかしという言葉が消えた。

翻って自身のことを述べたいと思います。大学の場における資格を主流にしたあらわれへ疑問を覚えていた時、大学を休学して青年長期ボランティアとして太陽と緑の会の活動に参加をして、自分がやろうとしている社会福祉とは一体社会のなかでいかなる意味を有しているのか、社会福祉とは何か、人とは何か、という本質的な問いを考えなおすことになりました。

「しかし……」と。

これらの疑問に対する答えは、その答えを探す行為の積み重ね、反復と持続に

あるように思えました。

復学後、うだうだと悩みもしましたが福祉の道（仕事）を選びました。

仕事にも慣れてきたある日、メンバーのAさんが唐突に「今まで僕は必要とされていなかった」と過去のことをふりかえって話しました。けれども最後には「今は太陽と緑の会がある」「必要にされている」といって嬉しそうに笑っていました。

「福祉とは何か」という同じテーマを繰り返しやり続ける。それしかやらない。より正しくはそれしかできない。持って生まれたものだからそれでやるしかない。

自らの中のしかしという言葉が消えるまでは。

山内豊徳という人間が『しかし』という一篇の詩にこめた意思と願いについて自ら問い続けていきたいと思います。

（太陽と緑の会専任職員 西村洋平）

引用文献

- 1 是枝裕和「しかし…ある福祉高級官僚 死への軌跡」あけび書房 1992、P225
- 2 是枝前掲同著 1992、P225-227
- 3 是枝前掲同著 1992、P233-234



リユース自転車の陳列準備。毎月第4日曜日には自転車バザーも開催しています。

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2010年6月1日～2010年7月31日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

太田、久次米、白川学園、山田、都築、匿名、高瀬、知多市での映画会・講演会にご来場頂いた市民の皆様 (郵便振替口座にご入金下さった皆様) 藤田、匿名

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○藤黒、中川、岡山、大櫛、田口、勝瀬、橋本、美馬、矢野、磯前、北谷、黒川、岡山、高橋、長尾、辻、第一生命 眉山支部、森川、小原、辻井、静香、くらら、金村、増田、大坂、内田、的場、小倉、安友、阿波義肢製作所 藤本、村沢、財団法人光協会、鈴江、藤永、美保、塩崎、浜本、多田、三嶋、豊崎医院、岡本、北島、(株)ジオス、北台、岩野、浅香、大西、木藤、宮城、横田、元木、三木、中田金庫店、松田、三谷、青木、梶好、藤森、勝田、小松、徳島北高校、美保、高橋、近藤整形外科、相原、小宮山、青笹、金野、浜野、アミコ専門店街、松下、西山、シーアイティー、鈴江、村川、西條産婦人科、宝田、田中、カトウ漬物、西田、塩野、吉村、市瀬、日下、岩佐、コマドリ、栗坂、川又、米澤、本田、渡辺、日浦、中尾、松崎、川瀬、岸本、森、中川 アニマルクリニック、山川、助任幼稚園、豊田、井内、赤坂、津川、三好、金山、伊藤、星野、柏木、高畠、岡田、溝内、中川、在宅介護支援センター 寺沢、田村、濱口、松下、矢木、岡、相葉、漆原、高橋、鎌倉、原田、(株)ジオス、三上、美馬、朝日、高須賀、川端、あき美容院、宮崎、服部、向井、上山、弘中、バルネケ動物病院、坂東、近藤、檜本、粟谷、浜淵、室仙、太田、石橋、村上、柴山、谷口、元木、カンガルー歯科、仁木、橋本、藤井、福島、片山、上村、大木、島田、長谷、後藤、小西、中元、宮本、川崎、船越、柴田、吉田、田室、鈴木、川田、市原、西、元山、佐々木、井上、月岡、(株)フルノ、久保、熊本、まるさ、こまどり理容室、井堀、坂本、秋田、篠原、柿原、山田、カンガルー歯科、横井、佐藤、西、ファミリーマート仲之町店、杉の子保育園、富岡、サミー、鳥尾、中森、杉本、泊、大田、林別館、堀井、戸田、大櫛、山口、ジオス、西木、松英、津川、久米、瀧口、池添、天羽、月華堂、鶴亀、松永、沢田、中田、太陽堂薬局、小畑、大宗、松井、下塚、高瀬、本光寺、奥野、藤田、内藤、盛、ビューティーオアシス、鴻野、渋野鮮魚店、西岡、木村、天神、宇田、近藤、西新町2丁目クリニック、徳島軒、十河、西川、滝下、梶川、小山、大木、斉藤、東口、牧

○小松島市○内藤、浅田、新居、井内、○吉野川市○野田八二一、武市、藤本、井内、○鳴門市○林、久龍、寺西、藤井、長野、辻、松島、大和、林、柴田、千葉、高瀬、谷居、藤川、大森、○松茂町○早見、福山、藤原、カネマツ、○藍住町○佐藤、篠原、福永、永井、上田、山上、則松、茶川、米沢、高田、○石井町○戸田、川上、野村、後藤、滝川、久次米、滝川、奥浦、○上板町○村田、○板野町○湊、西内、井上、高橋、○北島町○市橋、相城、結城、○阿南市○吉住

品物を持って来て下さった皆様（郵送含む）

○徳島市○長野、鴻野、郡、大北、落合、和田、高橋、切中、本田、田村、桑原、沖津、濱田、高木、西尾、中島、坂本、青枝、藤田、吉村、岩谷、長田、三木、姫野、谷澤、市山、藤田、宮本、田中、鈴江、住友、多田、吉田、浜野、猪俣、明丸、長楽、金丸、楠本、金本、仁木、大前、森、西、武市、岡、松本、吉岡、内藤、中川、多智花、山崎、阿瀬川、近藤、飛鳥、久米川、倉本、清水、秋田、立石、瀬部、市川、十川、藤波、馬淵、山本、島、島本、藤本、加藤、obari abo kaoer、押来、箕手、小椋、平佐、矢野、森岡、宮内、木元、木内、宗本、山田、尾池、岡島、西岡、中村、小林、中原、一心運輸、北台、福島、石原、佐藤、大島、梶若、吉本、斉藤、阿瀬、日野、樋口、加集、丸谷、イブラヒム、梅本、新谷、生原、元木、杉崎、生駒、浜野、石川、福永、川田、久保、岡田、小笠原、新見、後藤、坂口、前林、山花、木田、榎本、吉永、原、佐々木、丸池、小澤、稲木、石田、長尾、井原、荒木、勝間、戸村、米原、中窪、篠本、労福協なのはなヘルパーステーション、上山、吉崎、福原、瀬尾、臼木、前川、細川、矢川、吉見屋タイヤ、蔭山、杉本、画星、井上、杉井、秋山、喜多、寺奥、竹原、坂野、新谷、松浦、藤井、合田、松村、森本、武田、中井、三橋、宮内、原、深山、仁志、菜中山、城尾、植松、久次米、信田、増田、漆原、松下、大寺、峯田、西谷、梅津、富島、山口、増原、井川、丸谷、窪川、立川、中平、加集、北井、為田、横山、小林、縄田、鶴岡、竹橋、隅田、勝間、室、細束、嵐、早淵、尾崎、丹羽、平田、川人、平賀、阿瀬川、バンデワレ泰広、金子、木邑、坂東、大西、福盛、日下、おおばの社、上川、富永、粟飯原、岩佐、小泉、荒川、曾木、坂田、植田、西森、谷井、桂、井内、炭田、小栗、平佐、藤原、笠原、竹林、熊野、岩脇、榎本、村田、盛、三浦、櫻井、野田、堀金、大上、岩崎、美馬、村井、河崎、福田、伊丹、巻、大塚、森北、前田、青木、梯、大川、阿部、中野、河野、鎌田、角宮、片岡、岩田、中崎、谷村、西、赤木、粟野、露口、友成、菊原、梅谷、塩田、山橋、オロイジア ジェフリー、みどり保育園、滝沢、友竹、佐古、浅田、下田、山下、ブルーム、赤坂、



品物の引き取り（回収）作業。年間約 1300 件、ご家庭まで品物を頂きにお伺いしています。

半田、野口、上田、折上、片山、駒井、小賀、原田、井上、村上、徳元、宮西、京寛、中野、大藤、酒井、大松、大栗、渡辺、河村、須見、栗尾、眞鍋、朝倉、木村、眞澤、河野、力安、高見、宮崎、寺内、柳澤、山岡、杉田

○阿南市○天羽、加藤、平尾、井浦、武市、小川、橋本、河野、○神山町○香川、中原、○鳴門市○おおあさ苑、若松、永峰、鳴門授産センター、石川、東、林、藤川、渡辺、大橋、元木、丸泉、寺田、佐藤、大坂、山口、石丸、河野、尾崎、畑中、○上板町○原、松井、村田、岸野、坂井、廣澤、天野、水口、○藍住町○西川、森、河野、高比良、三好、南、寺内、藤田、楠本、亀谷、館、岡田、井出、藤井、村田、角本、鳥生、高田、土井、山田、佐竹、野口、佐藤、近藤、谷口、森下、井上、中島、渡辺、高島、萬藤、森、奥村、象潟、○阿波市○福家、大塚、竹内、山西、安丸、中西、松浦、平田、西田、○石井町○堀江、小田、山口、久米、野口、谷内、森口、河野、近藤、小高、片保、佐藤、横井、矢野、中原、藤本、高橋、富士原、浦橋、岡田、松尾、加藤、篠原、切原、浅井、山崎、芝、清重、タリーナ バザール、森野、前羽、岡本、松田、井上、兼子、樋口、徳長、浜辺、吉田、太田、○海陽町○神沢、野村、○吉野川市○大久保、香西、片岡、阿部、井内、谷、田村、川野、河野、上岡、竹中、川村、洲河、十川、佐藤、出口、川野、戸村、岩坂、森本、福田、近藤、○三好市○川村、○小松島市○高田、木村、中野、宮田、勝瀬、中川、柴田、○美馬市○中村、中川、大西、岡村、片岡、○北島町○中村、玉田、森、中川、中尾、村田、岩木、萩原、間宮、佐川、渡辺、工藤、富永、川原、村田、○阿波市○大崎、吉田、堀尾、坂東○板野町○平野、岡本、沖津、五條、岡本、高木、○上勝町○フロスト、○佐那河内村○村本、井上、○松茂町○長岡、○勝浦町○福田、○東みよし市○松浦、○美波町○内原
○東京都○佐尾山、牧野、○香川県○矢部、吉村、松村、○埼玉県○本田

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。

品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方もおられ、実際は上記の2倍以上の方のご協力を頂いております。

頂いた品物は大切にリユース・リサイクルし、障害者の支援、ボランティア育成、他団体への支援などの活動につなげています。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。(衣料品、食器、おもちゃから、電化製品、家具、自転車等いろいろな品物と、資源ごみをお引き取りし、活用させて頂いております。詳細は088-642-1054までお願いします。)

いつも旬のお野菜や果物を差し入れして下さる吉田様、多田様、エダマメを収穫させて頂いた川人様、作業所の昼食用にとカレー等の差し入れをして下さった河野様、ボランティアでいつも活動をサポートして下さっている三好様、片岡様にも、この場を借りてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

編集後記～時間が変わりました～

太陽と緑の会の活動時間が7月1日より、午前9時～午後6時から午前10時～午後7時に変更になりました。

「もう少し遅くまでしてくれとったら、ゆっくり品物が見れるんやけどなあ」

「普通のお店は夜の8時とか9時からいまでしょんのに（しているのに）、6時はちょっと早いん違うん？（早いんじゃないの）」

平日、仕事帰りに来て下さるお客様から、こうしたご要望を頂いておりました。

当会には、2つの顔があります。

①「様々なハンディを持った人が働く場」（福祉共働作業所）としての顔

②「市民の皆様が品物・資源ごみを持って来られたり、リユース品を再利用して下さるためのお店」としての顔

福祉の作業所等は、開所時間が午前9時～午後3時もしくは4時で、土日祝日は休みという所が、比較的多いです。太陽と緑の会リサイクル作業所のように

「毎週水曜日のみ休み、日曜祝日も午後6時まで活動」というのは、福祉領域では珍しく、開所日数、開所時間とも、多い部類に入ると思います。

（もちろん、様々なハンディを持ったメンバーさんの通所日数、作業時間は1人1人違います。日数の多い方、少ない方、時間の長い方、短い方、様々です。）

太陽と緑の会が福祉という部分に対して頂いている公的資金は運営費の15パーセント、残りの運営資金は自力で稼ぐ必要があります、「お店」としての視点がなければ運営は成り立ちません。

夕方5時を過ぎると、真夏であっても店内にはひんやりとした風が入り込めます。閉店まで2時間あります。エアコンレスでも快適なエコハウスの本領発揮といったところでしょうか。

拡大した本のコーナーや見やすくなった衣料品、食器、雑貨コーナーで品物をじっくり探したいという皆様、一度夕方のご来店をお試し下さい。（文責・小山）

特定非営利活動法人 太陽と緑の会

私たちは生態系のリサイクルを含めたリユース・リサイクル活動を、様々なハンディを持ったメンバー達の地域活動支援センター・障害者地域共同作業所とリンクさせて、行っています。地域の中で「人も物も活かされる街造り」をテーマに、ハンディーのあるなしにかかわらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々（市民、ボランティア、行政）の支えを頂きながら年間300日、土、日、祭日を含めた、日常活動を行っています。

発行：特定非営利活動法人 太陽と緑の会

〒779-3120

徳島県徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX

088-643-1054（事務局）

088-642-1054

（リサイクル、地域活動支援センター）

URL <http://www.t-midori.org/>

E-MAIL t-midori@jeans.ocn.ne.jp

代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎

作成サポート 岡田 郁子

年会費：正会員1万円 準会員1,000円

郵便振替口座：01620-8-44703